

# 令和3年度 川崎市立中学校 学習状況調査 概要



## ◎ 調査の概要

### 1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

### 2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

### 3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

### 4. 調査実施日及び調査実施人数

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| (1) 調査実施日  | 令和3年11月9日（火）      |
| (2) 調査実施人数 | 中学校 第1学年 9,867 人  |
|            | 中学校 第2学年 10,168 人 |
|            | 中学校 第3学年 9,893 人  |

## 5. 調査の方法

○国語・社会・数学・理科・英語

各教科の問題は、知識・技能に関する問題と思考・判断・表現に関する問題について出題し、それぞれについて分析を行った。

解答用紙

知識・技能に関する問題

思考・判断・表現に関する問題

令和3年度 川崎市立中学校 学習診断テスト 数学 2年 解答用紙

※右下の欄に「受検者シール」をはること。

問	知技	思判表
問1	1	/3
問2	2	/4
問3	3	/3
問4	4	/3
問5	5	/1
問6	6	/3
問7	7	/3
問8	8	/3
問9	9	/3
問10	10	/2
正答数	/20	/17

知識・技能に関する問題 と 思考・判断・表現に関する問題 のそれぞれの正答数

<注意> 右のマークは、ぬりつぶしたり、傷をつけたりしてはいけません。

川崎市立 中学校 組 番

2021108200000

受検者シール

ここに受検者シールをはってください。

U KW数2-1

## ◎ 調査結果の概要

### 平均正答率

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
知識・技能	64.2%	51.5%	63.0%	49.2%	58.9%
思考・判断・表現	55.6%	51.6%	45.4%	47.8%	40.2%
全設問	59.2%	51.5%	54.9%	48.5%	49.2%

### 主な分析結果（課題等）

#### 国 語

- 既習の漢字を正しく読むこと（知・技）
- 文章を的確に読み取り、条件を満たして記述すること（思・判・表）
- グラフを的確に読み取り、条件を満たして文章を書くこと（思・判・表）

#### 社 会

- 資料を適切に読み取り、生活経験と結び付く事象を理解すること（知・技）
- 歴史的分野で「文化」や「社会」に関する事象を理解すること（知・技）
- 事象の因果関係に着目して、事象を関連付けて考察すること（思・判・表）

#### 数 学

- 単項式や多項式の四則計算をすること（知・技）
- 円柱の表面積を求めること（知・技）
- 与えられた情報を整理し、数学的に表現すること（思・判・表）

#### 理 科

- 唾液の働きと至適温度を調べる実験の考察から、実験方法を推測すること（思・判・表）
- 物理量や質量パーセント濃度を求めるための立式をすること（知・技）
- 実験結果を基に、予想や仮説に正対する分析・解釈をすること（思・判・表）

#### 英 語

- 場面に合った適切な応答を選択すること（知・技）
- 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択すること（知・技）
- 場面や状況を理解し、それに適した文章を正しく書くこと（思・判・表）

#### 各教科に共通

- すでに身に付いている知識及び技能を正しく使うこと
- 複数の資料や既習事項を関連付けて考察したり表現したりすること

○定着していると考えられる内容 ●課題があると考えられる内容 ( ) 内は問題の分類

## ◎ 各教科に共通する課題

(例) 数学

与えられた情報から変化の様子を捉え、数学的に表現することに関する問題

### ○ 出題の趣旨

与えられた情報を整理し、問題を解決するための見通しをもつことができる。

**問9**

次の問いに答えなさい。

… (中略) …

タンクAには給水管から毎分5cm、タンクBには給水管から毎分3cmの割合で水面が高くなるように水を同時に入れ始め、それぞれの水面の高さが45cmになったところで給水管を閉じました。また、タンクBについては給水管を閉じると同時に排水管を開いたところ、毎分5cmの割合で水面が下がり、タンクBの中が空になりました。

下の図2は、水を入れ始めてから $x$ 分後の水面の高さを $y$ cmとしたときのグラフです。

このとき、次の問いに答えなさい。

図1

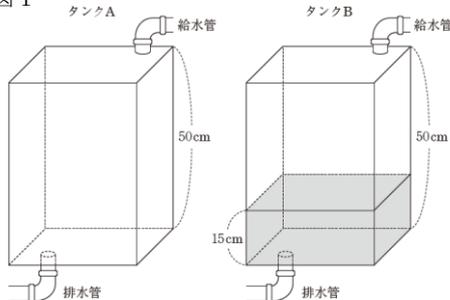
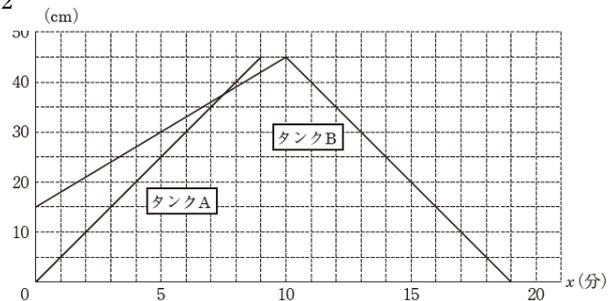


図2



- (ア) 図2において、水を入れている途中にタンクAとタンクBの水面の高さが等しくなるのは、水を入れ始めてから何分何秒後か求める方法を説明しなさい。ただし、グラフから交点の座標は読み取れないものとします。また、実際に何分何秒後かを求める必要はありません。

(7) 正答： 2つのグラフが表す直線の式を連立方程式として解

**正答率：29%**

### 主な課題

具体的な事象を捉え考察し表現すること。

### ○ 授業改善に向けて

学習指導要領解説数学編では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、関数関係を見だし一次関数について考察し表現することができるようにすることと述べられている。

授業改善の手立てとして、具体的な事象の中から観察や操作、実験などによって取り出した二つの数量について、事象を理想化したり単純化したりすることによって、それらの関係を一次関数とみなし、そのことを根拠として変化や対応の様子を考察したり予測したりすることができる。本問の場合では、図やグラフ、式を相互に結びつけたり検討したりすることで、そのグラフがどのような状況を示しているのか、今後どのような状況になるのか予測したり説明したり、考えを伝え合う活動を通して、その根拠を説明する場を設定することが考えられる。

# 経年観察およびその考察

学 年	経年変化の観点	趣 旨	実施年度	考 察
--------	---------	--------	------	--------

## 国語の例

第 2 学 年	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する（文学的文章）	思・判・表	R1 問4(カ)	R2 問4(ウ)	R3 問4(エ)	文章の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。R1では正答率が高まった要因として登場人物の立場や心情を捉えやすかったことを挙げた。比べて、今年度出題された「廉太郎」の心情は、やや捉えにくかったことが考えられる。また、内容を捉えていることは窺えるものの、文として整っていない誤答が多い。物語の展開に即し叙述を根拠に心情を捉える中で、読み取った内容等をまとめる際は文や文章として適切か、見直し検討することもできるようにしていきたい。
			81%	18%	31%	
	文のつながりの理解（説明的な文章）	思・判・表	R1 問5(ア)	R2 問5(イ)	R3 問5(イ)	抜き出された一文が、文章中のどこに入るかを答える設問である。ここ数年の経年で見ても正答率は50%～60%であり、文や段落の文章中での働きや、文や段落相互のつながりを考えることに課題がある。授業では、事実と意見や、文章全体と部分との関係などを読み分けながら、論理の展開や文章全体の内容を捉えることができるよう、指導の工夫が必要である。
			60%	55%	54%	
	歴史的仮名遣いの理解	知・技	R1 問6(イ)	R2 問6(イ)	R3 問6(ア)	R1は「あひぬ」、R2は「つかひければ」、R3は「いはく」を現代仮名遣いに直す設問である。今年度も誤答としては現代語訳を答えているものが多かった。また、過去2年間と比べ正答率が低い。正答率の変動が大きい項目なので今後も注意して見ていきたい。また、問題の意図を理解することや、歴史的仮名遣いの理解を深めることについては繰り返し指導していきたい。
			62%	78%	44%	
	資料をもとにし、立場を明確にして自分の考えを記述する	思・判・表	R1 問7	R2 問7	R3 問7	R1は「図書委員として伝える読書のよさ」、R2は「最も親しい人に自分の本音を伝えやすい手段・方法」、R3は「外国人と接する際のコミュニケーションの方法」がテーマである。3年間で最も低い正答率であった。問題や条件を捉えていることが窺えるものの、文として整っていない解答が多い。授業では書いた文章を見直し推敲することにもしっかり取り組ませたい。また、文章を読むことを通じて助詞の使い方や主語・述語の関係等の理解を深めることも大切である。
			58%	40%	36%	

## 英語の例

第 2 学 年	会話文を聞き、適切に応答する	思・判・表	R1	R2	R3	軽微な単語の綴りやスペルミスなどがある解答も含めれば約7割の生徒が正答、もしくは正当に近い解答を書くことができていた。冬休みについて会話を聞き、自分の予定を書くことがねらいであったが、会話の内容を捉え、be going toを用いて解答することができていた。まとまった内容を聞くようなリスニング活動を継続的に行ったり、身近な話題についてやり取りしたり、書いたりする場面を授業で取り入れていきたい。	
				放4	放4		
					33%	38%	
	助動詞を含む文の並べ替え	知・技	R1 問4d	R2 問3c	R3 問3c	今回の問題は、レストランやカフェでの店員とのやり取りの中で用いるWould you like ~?の表現であり、基本的なフレーズであったこともあり、昨年度よりも正答率が高かった。基本的な表現についても、使用場面を意識させ、言語活動の中で繰り返し触れることで、文構造の定着を図りたい。	
			25%	65%	70%		
	メールの内容理解	知・技	R1 問6c	R2 問5b	R3 問5b	約6割の生徒が正答することでできた。しかし読み間違いなどの誤答も目立つため、継続的な取組が必要である。ある程度まとまった英文を読み、その内容を整理したり、必要な情報を確認したりする力を伸ばすために、授業の中で長文に触れる機会を増やし、全体の内容を掴んだり、細かい部分に着目するなどの読解の指導をしていきたい。	
			34%	42%	59%		
	会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	R1 問8a,b	R2 問7a,b	R3 問7a,b	正答率が約3割に留まった。また、無答や会話の流れや絵の場面に合っていない解答が、a,bともに半数にのぼった。会話のやり取りや場面を理解し、その場面に適した英語を書くことができなかったと考えられる。言語活動の中で、使用場面を明確にしながら、よく使用する表現や定型の表現を繰り返し使いながら定着を図る必要がある。	
			45%,10%	19%,13%	31%,34%		

## ◎ 経年観察の問題と、数値変化とその要因（英語）

令和元年度

c. ジョン(John)はイギリスにいる姉のエマ(Emma)にEメール(e-mail)を送りました。

To Emma  
My birthday present for \*Sophia.

Hi Emma,  
Thank you for your e-mail.  
I saw some pictures of the birthday \*party for our grandmother, Sophia.  
The \*glasses were a nice present. I think she enjoys reading with the glasses.  
She looks really happy.

I'll go to London this winter. When I visit her, I want to give a present to her.  
I want to give an experience as a present.

When I called mom, she gave some ideas. She said, "Sophia is interested in football." I was surprised to hear that. She is 80 years old!

Do you know \*David? The boy lives next to her house.  
He plays football these days. He always practices it in front of his house.  
Sophia likes to watch him.  
She \*became a football fan. Now, she often watches football games on TV.  
So, I want to watch a football game with her at the stadium.  
What do you think about my idea?

Bye for now,  
John

\*Sophia ソフィア(人名) party パーティー glasses メガネ  
David デイビット(人名) became ーになった

Question: What will John give to his grandmother?

1. He will give glasses to watch a football game.
2. He will give a ticket to watch a football game.
3. He will give a soccer ball to practice with David.
4. He will give an experience to practice football.

令和3年度

d. サキはアメリカにいる友人のジョシュ(Josh)にメールを送りました。

To Josh  
My \*future job

Hi, Josh.

You asked me about a future job in your e-mail. You want to be a doctor, right? Being a doctor is great. You are kind and smart. I think you will be a good doctor in the future. In this e-mail, I'm going to talk about my future job.

I know a great teacher, Mr. Hayashi. I can't forget him. He was my favorite teacher. I was sick when I was seven years old. I was in the \*hospital for one year. I met a teacher in the hospital. That was Mr. Hayashi. He often came to the hospital and taught me a lot of things. I learned Japanese, math, science, social studies and so on. They were very interesting to me. He wasn't a music teacher, but he was good at playing the piano. His piano music always \*encouraged me.

I'm interested in these jobs, a teacher and a \*musician. Good teachers and musicians can give many people \*hopes and dreams. \*Both jobs are great, but I think teaching is \*better for me. I like studying and playing with children. I'm good at math, but I want to teach music at school. I like playing the piano. If my students enjoy my music class with my piano, I'll feel very happy.  
What do you think about my future job?

See you,  
Saki

\*future 将来の, 未来の hospital 病院 encourage ~ ~を勇気づける  
musician 音楽家 hope(s) 希望 both 両方の better よりよい

Question: What does Saki want to be in the future now?

1. A doctor.
2. A math teacher.
3. A musician.
4. A music teacher.

メールの内容理解	知・技	R1	R2	R3	約6割の生徒が正答することでできた。しかし読み間違いなどの誤答も目立つため、継続的な取組が必要である。ある程度まとまった英文を読み、その内容を整理したり、必要な情報を確認したりする力を伸ばすために、授業の中で長文に触れる機会を増やし、全体の内容を掴んだり、細かい部分に着目するなどの読解の指導をしていきたい。
		問6c	問5b	問5b	
		34%	42%	59%	

### ○数値変化とその要因

英文のメールを読んで、内容を捉える問題については、正答率は高くなっている。

英文の内容理解では、メールを含む様々な形式の英文に慣れることが必要であり、また、メールについては、ただ英文を日本語に訳すのではなく、誰が誰に対して、何の目的で送ったメールなのかなど、状況や目的を理解した上で必要な情報を捉えることが重要である。

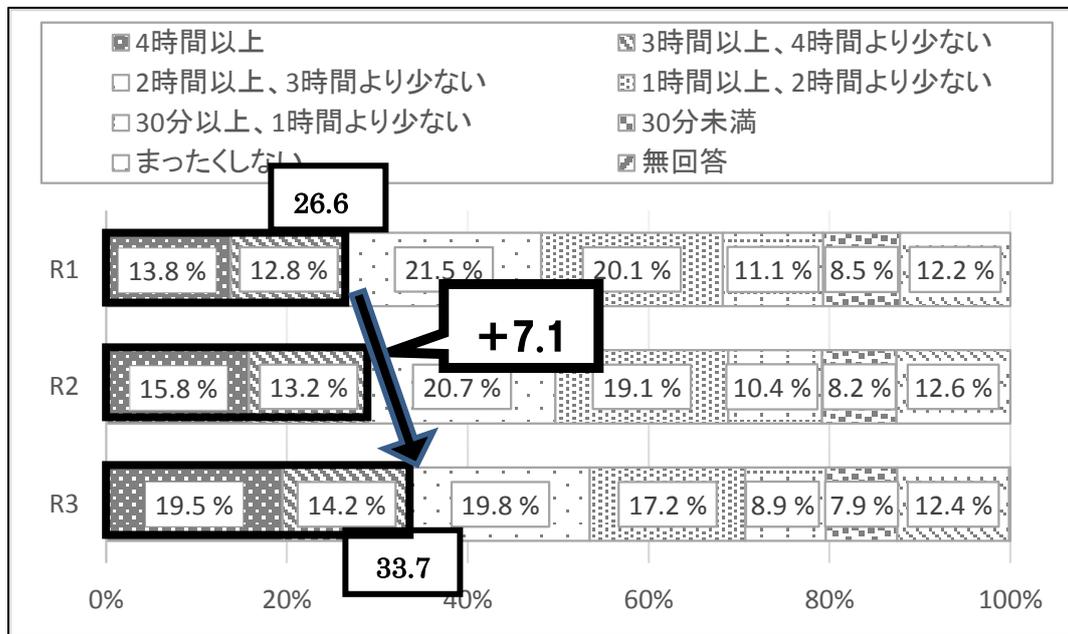
A L T (外国語指導助手) の活用により、教科書にある英文に加えて、生徒が様々な英語に触れる機会ができている。また、ただ英文を日本語に訳する指導ではなく、目的に応じて必要な情報を捉えるようにする指導が定着してきていると考えられる。

◎ 生活や学習についてのアンケート

家庭生活の実態

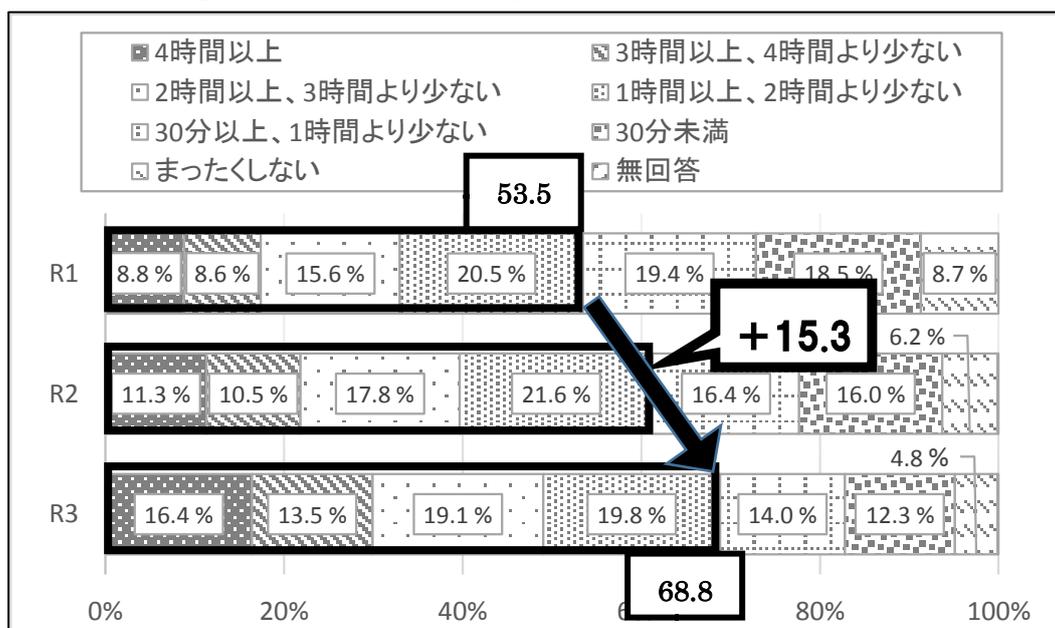
3年間の比較

問38 テレビゲームの実施時間 (報告書P121 参照)



「3時間以上」の回答の合計は、33.7%で、R2年度と比較して、4.7ポイント増加した。令和元年度と比べると、7.1ポイント増加した。

問39 携帯電話やスマートフォンの使用時間 (報告書P121 参照)



携帯電話やスマートフォンを「1時間以上使用する」と回答した児童は、68.8%であり、R2年度と比較すると7.6ポイント増加した。令和元年度と比べると、15.3ポイント増加した。

各教科等に関する意識

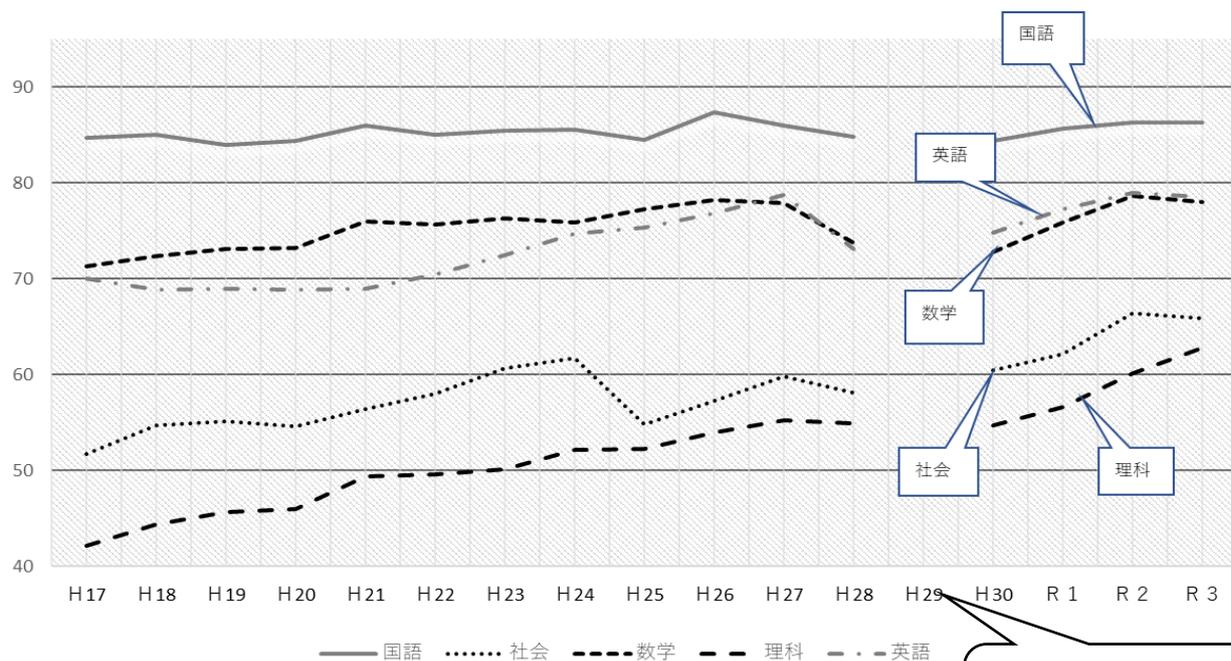
問 15～19 有用感（生活）

（報告書 P116 参照）

長期的な視点での比較

平成 17 年度からの経年変化

Q 15～19 各教科の有用感（生活）



H29 年度は、質問をしていない。

	平成 17 年度	令和 3 年度	差
国語	84.7%	86.3%	+1.6
<b>社会</b>	<b>51.7%</b>	<b>65.9%</b>	<b>+14.2</b>
数学	71.3%	78.0%	+6.7
<b>理科</b>	<b>42.2%</b>	<b>62.8%</b>	<b>+20.6</b>
英語	70.0%	78.5%	+8.5

同一集団での比較
----------

自己肯定感・将来に関する意識等

問44 自分には、よいところがあると思う。(報告書P124 参照)

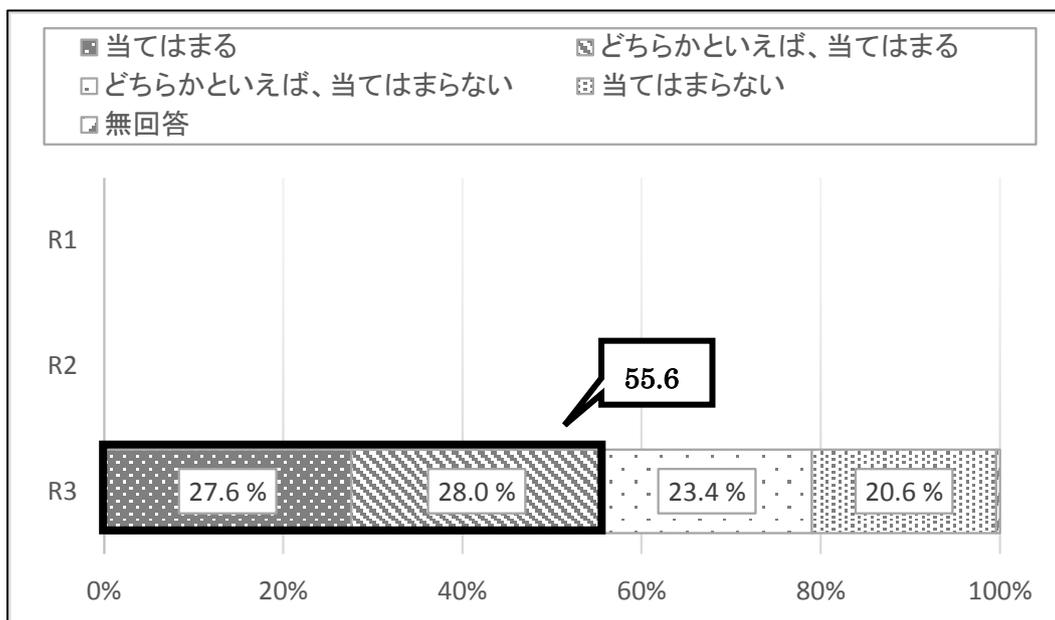
	中2時	小5時	差
R3の中2の集団(現中2)	72.6%	81.4%	-8.8
R2の中2の集団(現中3)	72.6%	80.4%	-7.8
R1の中2の集団(現高1)	72.4%	79.2%	-6.8

問45 将来の夢や目標を持っている。(報告書P124 参照)

	中2時	小5時	差
R3の中2の集団(現中2)	64.1%	87.2%	-23.1
R2の中2の集団(現中3)	66%	88.9%	-22.9
R1の中2の集団(現高1)	66.8%	87.7%	-20.9

(報告書 P130 参照)

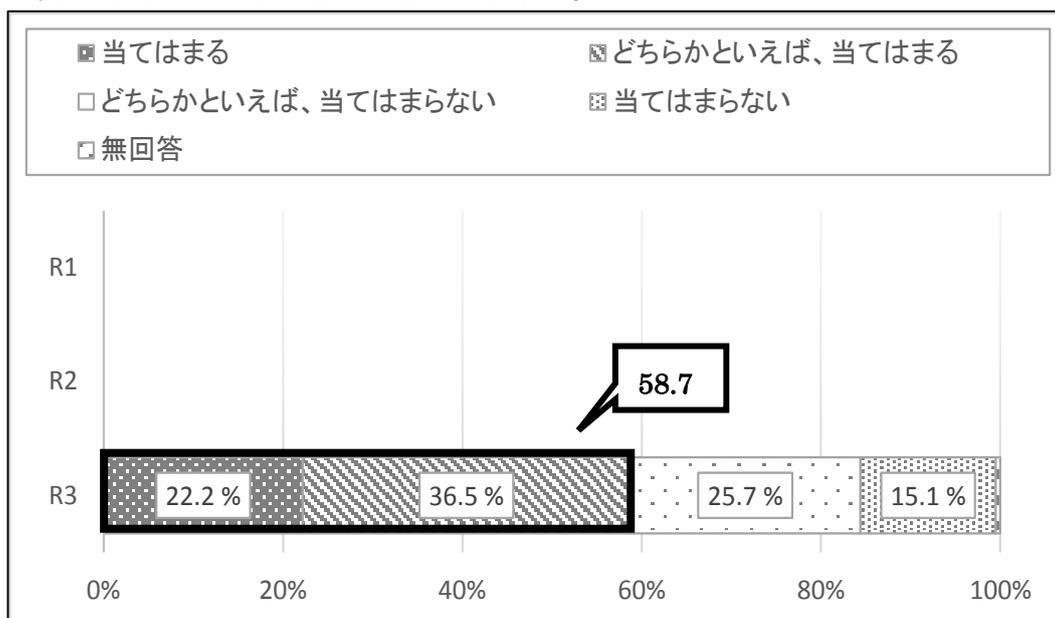
問 7 0 先生に指示されたときだけでなく自分から進んで GIGA 端末を活用していますか。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は 55.6% である。

(報告書 P131 参照)

問 7 1 GIGA 端末を活用することで、学習を見通したり振り返ったり、話し合い、自分の考えを深めることができますか。



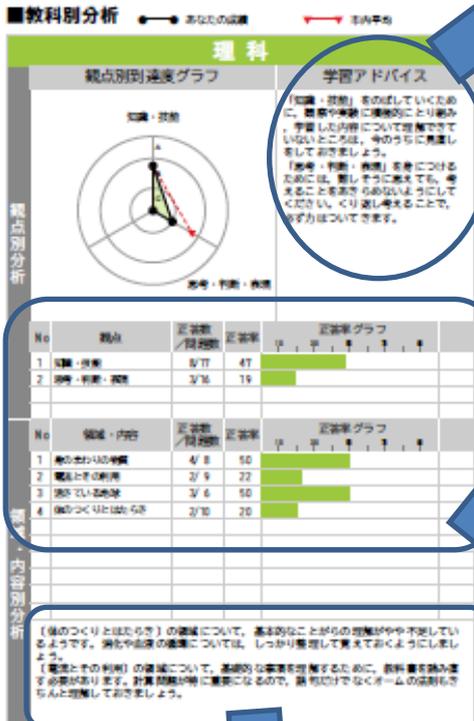
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は 58.7% である。

◎ 調査結果の活用

1. 個人票

川崎市立中学校  
学習状況調査 個人成績表

108号 川崎中学校新テスト中2  
中学2年 2021年11月9日実施  
1413001  
〇〇中学校  
2年 1組 1番



### 学習アドバイス

「知識・技能」をのばしていくために、観察や実験に積極的にとり組み、学習した内容について理解できていないところは、今のうちに見直しをしておきましょう。

「思考・判断・表現」を身につけるためには、難しそうに思えても、考えることをあきらめないようにしてください。くり返し考えることで、必ず力はついてきます。

### 意識調査

各設問に対して、川崎市全体の回答の割合を%で表しています。本人の回答したところは色付きになっています。

理科			
理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。	45.4	している	17.4
理科の授業で、自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしていますか。	17.4	よくできてきた	19.7
理科の授業の後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができてきましたか。	38.9	時々できてきた	28.5
どちらかといえば、好きだ	32.2	どちらかといえば、している	28.5
どちらかといえば、好きではない	13.6	どちらかといえば、していない	32.4
好きではない	8.5	していない	21.4
無回答	0.3	無回答	0.3

「体のつくりとはたらき」の領域について、基本的なことから理解がやや不足しているようです。消化や血液の循環については、しっかり整理して覚えておくようにしましょう。

「電流とその利用」の領域について、基本的な事項を理解するために、・・・

観点別

No	観点	正答数 / 問題数	正答率
1	知識・技能	8/17	47
2	思考・判断・表現	3/16	19

領域・内容別

No	領域・内容	正答数 / 問題数	正答率
1	身のまわりの物質	4/8	50
2	電流とその利用	2/9	22
3	活きている地球	3/6	50
4	体のつくりとはたらき	2/10	20



大問	小問	領域	設問内容	正答率グラフ	全問正答率 (%)	正誤
1	1	1	身のまわりの物質	50	45	○
1	1	1	密度の求め方	37	37	●
1	2	1	密度の概念	51	51	○
2	1	1	B7B溶液	51	51	○
2	2	1	気体の発生方法と性質	47	47	○
3	1	1	質量パーセント濃度	48	48	○
3	2	1	物質の溶け方	43	43	●
4	1	1	物質の状態変化	42	42	○
4	2	1	融点の概念	44	44	○
5	1	2	電流とその利用	47	22	●

個人票は、教育相談などの機会を利用して返却し、一人一人の生徒が学習に取り組む態度、学習状況や学習課題の把握、そして、家庭学習の在り方を改善することに活用している。

また、学校や教員が一人一人の生徒の学習状況を的確に把握することにより、指導方法を含めた授業改善や個に応じた指導、教育課程の検証・改善を図ることに活用している。

## 2. フォローアップシート

生徒ごとの課題に応じた問題例

【参考】理科・・・身のまわりの物質

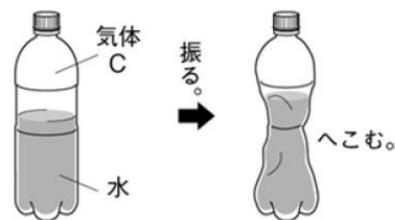
気体の性質については定着している生徒への問題

- 気体A～Dの性質を調べて、下の表にまとめました。気体A～Dは、酸素、二酸化炭素、アンモニア、水素のいずれかです。

	水への溶け方	空気と比べたときの質量比	水溶液の性質
A	溶けにくい	1.11	－
B	ひじょうに溶けやすい	0.60	アルカリ性
C	( )	1.53	酸性
D	溶けにくい	0.07	－

- (1) 気体Aは、水上置換法、下方置換法、上方置換法のどれで集めますか。
- (2) 気体Bに水でぬらした赤色リトマス紙をかざすとどのようになりますか。

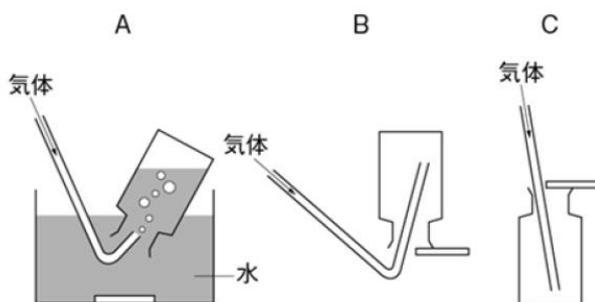
- (3) 水が半分入ったペットボトルに気体Cを入れて密閉したあとに振ると、図のようにペットボトルがへこみました。表の( )にあてはまることばを書きなさい。



- (4) 気体Dを集めた試験管の口にマッチの火を近づけるとどのようになりますか。

気体の性質に課題が見られる生徒への問題

- 下の図は、3つの気体の集め方を示しています。



- (1) Aの気体の集め方を何といいますか。
- (2) 水に溶けやすく、空気より密度が大きい気体の集め方は、A～Cのどれですか。

- (3) 二酸化炭素を集められないのは、A～Cのどれですか。
- (4) 二酸化炭素が発生するものを、次のア～エから選びなさい。  
 ア 二酸化マンガんにうすい過酸化水素水を加える。  
 イ 石灰石にうすい塩酸を加える。  
 ウ 亜鉛にうすい塩酸を加える。  
 エ 塩化アンモニウムと水酸化カルシウムの混合物を加熱する。

「フォローアップシート」では、生徒の学習状況に応じてフォローアップ問題を提供し、生徒一人一人の課題を改善できるようにしている。

生徒ごとの課題に応じて、定着を確認する問題や課題を補充する問題を提供している。